

共生 生命教育



小学校中学年以上

中学校

道徳

総合

みんな生きています 15分

みんなでいっしょに奏でよう (2006年放送)

この番組の良さ



いっしょにやりとげる

中学1年生の北村直也君は、生まれつきほとんど目が見えません。点字の教科書を使い、パソコンを使ってノートをとっています。そして、なんにでも挑戦したい直也君はブラスバンド部に入部します。一人だとさみしいが、みんなといっしょだと楽しい。そんな直也君の音楽に取り組む姿勢から、仲間とともにやりとげるすばらしさを、学ぶことができます。

特別支援教育への理解のために

「たくさんの友だちがいる学校が大好きです。」この言葉の意味をしっかりととらえ、ともに学び、ともに悩み、お互いに補い、助け合い、支え合うことの大切さを、教師サイドではなく、子ども同士の視点から学ぶことができる番組です。

番組活用のポイント

前向きに生きるために

学級の子どもたちの中には、失敗を恐れたり、困難なことを避けたりする傾向にある子どもがいます。また、中には、なかなか集団生活になじめない子どももいます。この番組を視聴することにより、物事を前向きに考え、困難に打ち勝つことの難しさや大切さ、みんなで一緒に活動することの楽しさについて、前向きに考えることができます。

実体験を通して

この番組を視聴する前、または視聴後に、関連学習として、点字の学習やアイマスク体験を行うとよいでしょう。目が不自由だと何もできないと思込んでいる子どもが多いですが、実体験をとおして、目が不自由でもできることはたくさんあると気づかせるよう心がけます。そして、同時に不便なことにも気づかせ、自分にできるお手伝いを考えていきます。また、目の不自由な人と接するときのマナーについても学習するとよいでしょう。

より発展的に

班に分かれて行う、音楽発表会や総合的な学習の発表会などの前に、本番組の視聴を試みるのもよいでしょう。この番組は、一人ひとりの個性を大切に、仲間とともにやりとげることの大変さや、すばらしさを教えてくれます。そして、壁にぶつかったときに、どう乗り越えていけばよいかを、子どもたちの視点から考えていくとよいでしょう。

また、学校や町の中のバリアフリーについて調べてみるのもよいでしょう。そして、誰もが暮らしやすい環境にするには、どうすればよいかについて考えてみましょう。

(溝内正剛)